

5年生の学習を例に

(社会科では、社会の仕組みを理解した上で、自分たちの生活に関連づけながら、

よりよい課題解決の方法を考えていくのです。)

前の場面のような学習を通して、子どもたちは
・自分たちの生活(国民生活)を支えてくれていること
・生産者や輸送者、販売者等は、様々な工夫をしてくれていること
などを理解していきます。

さらには…
次のような子どもの姿が期待できます。
予想できますか?



多くの人の努力で食べられる
お米を粗末になんてしないぞ!

漁業でも、
似ている部分があったよ。

自分事になっていると、
知識の習得だけでなく、人間性を豊かにすることにつながります。
また、関連性を見出すことで、米作りに詳しい
「お米博士」に育てるのではなく、
日本の食料生産について考えられるようになります。

産業の「これから」を考える授業もあります。
「あなたが農家なら、6次産業に挑戦しますか。」

はじめに費用がとてもかかるよ。
これでは、将来が不安だよ。

地域の資源を活用できるから、
地域の食文化を伝えられるよ。

「つくる」だけじゃなくなってしまふから、たいへんだよ。

働く場所が増えるから、
人を雇えるよ。たくさんいれば、
仕事の役割分担ができるよ。

しかし、この話し合いは、まだ予想で
終わっています。そこで、ゲストです。

良かったことはね…
たいへんなのはね…

このような事実(=社会の仕組み)を
理解した上で、「からの食料生産
(=未来)について、自分は、どのように
考えるか。」をまとめます。

からの農業で大切なことは…
消費者である僕らは…

次回は、6年生を例に紹介します★